

第 5 章 指数関数と対数関数

2 7 指数の拡張

1 整数の指数

$a \neq 0$ で、 n は正の整数とするとき

$a^0=1,$ $a^{-n}=\frac{1}{a^n}$ とくに $a^{-1}=\frac{1}{a}$

指数法則 (指数が整数)

$a \neq 0, b \neq 0$ で、 m, n は整数とするとき

1 $a^m a^n = a^{m+n}$ 2 $\frac{a^m}{a^n} = a^{m-n}$
3 $(a^m)^n = a^{mn}$ 4 $(ab)^n = a^n b^n$

2 累乗根

n を正の整数とするとき、 n 乗すると a になる数を a の **n 乗根** という。
また、 a の 2 乗根, 3 乗根, 4 乗根, …… をまとめて a の **累乗根** という。
正の数 a に対して、 $x^n=a$ を満たす正の数 x がただ 1 つある。

この正の数 x は $\sqrt[n]{a}$ で表す。

また、 $\sqrt[n]{0}=0$ である。

累乗根の性質

$a>0, b>0$ で、 m, n, p は正の整数とするとき

0 $\sqrt[n]{a}>0, (\sqrt[n]{a})^n=a, \sqrt[n]{a^n}=a$
1 $\sqrt[n]{a} \sqrt[n]{b} = \sqrt[n]{ab}$ 2 $\frac{\sqrt[n]{a}}{\sqrt[n]{b}} = \sqrt[n]{\frac{a}{b}}$ 3 $(\sqrt[n]{a})^m = \sqrt[n]{a^m}$
4 $\sqrt[n]{\sqrt[n]{a}} = \sqrt[n]{a}$ 5 $\sqrt[n]{a^m} = \sqrt[n]{a^m}$

参考 負の数の n 乗根 研究

n が正の奇数のときは、負の数 a に対して、 $x^n=a$ を満たす実数 x がただ 1 つある。
この数 x も $\sqrt[n]{a}$ で表す。

n が正の偶数のときは、常に $x^n \geq 0$ であるから、負の数 a に対して $x^n=a$ を満たす
実数 x は存在しない。

例 $\sqrt[3]{-27}=\sqrt[3]{(-3)^3}=-3, \sqrt[5]{-3}=-\sqrt[5]{3}$

3 有理数の指数

$a>0$ で、 m, n は正の整数、 r は正の有理数とするとき

$a^{\frac{m}{n}}=\sqrt[n]{a^m}$ とくに $a^{\frac{1}{n}}=\sqrt[n]{a}$ $a^{-r}=\frac{1}{a^r}$

指数法則 (指数が有理数)

$a>0, b>0$ で、 r, s は有理数とするとき

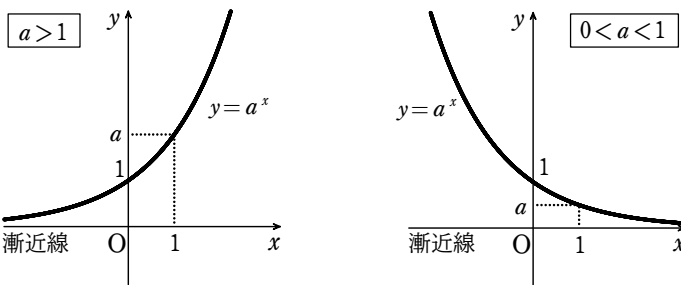
1 $a^r a^s = a^{r+s}$ 2 $\frac{a^r}{a^s} = a^{r-s}$ 3 $(a^r)^s = a^{rs}$ 4 $(ab)^r = a^r b^r$

注 この指数法則は、指数 r, s が実数の場合にも成り立つ。

2 8 指数関数

1 指数関数 $y=a^x$ ($a>0, a \neq 1$) のグラフとその特徴

- 1 定義域は実数全体、値域は正の数全体
- 2 $a>1$ のとき増加関数 $p<q \iff a^p<a^q$
 $0<a<1$ のとき減少関数 $p<q \iff a^p>a^q$
- 3 $y=a^x$ のグラフは x 軸を漸近線としてもち、2 点 $(0, 1), (1, a)$ を通る。



2 9 対数とその性質

1 指数と対数

$a>0, a \neq 1$ で $M>0$ とするとき

$M=a^p \iff \log_a M=p$

とくに $\log_a a^p=p$

また $\log_a 1=0, \log_a a=1$

2 対数の性質

$a>0, a \neq 1, M>0, N>0$ のとき

- 1 $\log_a MN=\log_a M+\log_a N$
- 2 $\log_a \frac{M}{N}=\log_a M-\log_a N$ とくに $\log_a \frac{1}{N}=-\log_a N$
- 3 $\log_a M^k=k\log_a M$ (k は実数)

3 底の変換公式

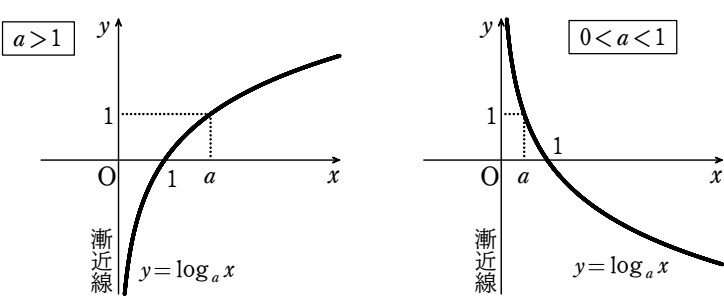
a, b, c は正の数で、 $a \neq 1, b \neq 1, c \neq 1$ とするとき

$\log_a b=\frac{\log_c b}{\log_c a}$ とくに $\log_a b=\frac{1}{\log_b a}$

3 0 対数関数

1 対数関数 $y=\log_a x$ ($a>0, a \neq 1$) のグラフとその特徴

- 1 定義域は正の数全体、値域は実数全体
- 2 $a>1$ のとき増加関数 $0<p<q \iff \log_a p<\log_a q$
 $0<a<1$ のとき減少関数 $0<p<q \iff \log_a p>\log_a q$
- 3 $y=\log_a x$ のグラフは y 軸を漸近線としてもち、2 点 $(1, 0), (a, 1)$ を通る。
- 4 $y=\log_a x$ のグラフは、指数関数 $y=a^x$ のグラフと直線 $y=x$ に関して対称である。



3 1 常用対数

1 常用対数

10 を底とする対数を 常用対数 という。

$M=a \times 10^n$ (n は整数、 $1 \leq a<10$) とすると $\log_{10} M=\log_{10} a+n$

2 常用対数の応用

- 1 正の数 N と自然数 k について
 N の整数部分が k 桁 $\iff 10^{k-1} \leq N < 10^k$
 $\iff k-1 \leq \log_{10} N < k$
- 2 $0<M<1$ である小数 M と自然数 k について
 M の小数第 k 位に初めて 0 でない数字が現れる
 $\iff 10^{-k} \leq M < 10^{-k+1}$
 $\iff -k \leq \log_{10} M < -k+1$